

広報



ごよがわら

発行所
五所川原市役所
335号
昭和49年9月1日
印刷 日刊民友新聞社

市の人口 男 25,050人 世帯数 13,741世帯
51,838人 女 26,788人 (49年8月1日現在) 住民基本台帳から



おめでとう 新成人

ことしの市の成人式が、月遅れお盆の8月14日、華やかにおこなわれました。ことし成人を迎えたのは、市が誕生した昭和29年に生まれた587人(男264人、女323人)。会場の市民文化会館には、夏にふさわしい軽装で200人ほどが出席、佐々木市長らの励ましをうけ、互いにおとなの仲間入りを祝福しあいました。

なかに胸をしめつけられる
四十八年度の事業報告の
稼協会の総会
が開かれる。

市長日記

佐々木 孝
八月十五日

(木) 晴、
十時、市民文
化会館におい
て盆の十五日
をねらって出
稼協会の総会
が開かれる。

のが、両親出稼児童生徒激
励会の一駒である。出席児
童三三七名となつて いる
が、これらの残された留守
家庭の児童は、おじいさ
ん、おばあさんと一緒に住
んで いるのは、よい方で、
親類、知人宅に預けられた
り、なかには上が中学生と
なると、子供たちだけの自

炊生活もある。市では学校
当局に、お願いするとも
に、福祉事務所の巡回や安
全確保のために消防パト
ロールを実施(この場合、目
立たないように普通人の服
装に変えるなど細心の気を
配っている)しているが、
この両親出稼家庭の漸増傾
向には行政の力不足をまぎ
まぎ見せつけられる思いで
ある。

また出稼者自身をめぐる
問題もきびしくなりつつあ
り、市対策室の窓口調査に
よれば、四十代が三一%と
もつとも多く、これに五十
代の一九%、六十代の九
%、七十代の一%を加える
と、中、高年齢層が六〇%と
いう高率を示している。

しており、問題の深刻化を
示唆している。
私は言った……出稼者六
千人を推定される事態はま
ことに残念である。出稼を
なくすることは基本対策で
あるが、この場合、農業サ
イドで出稼をなくすること
ができれば、それはベター
であると思う。新農業セン
ターの存在もここにほん
とうの意義がある。私は田園
都市を望み、いわゆる農主
工従政策を実行してゆく決
意である……と。

……
としておくと役立ちます
……



朝日に銀輪を輝やかせて

みちのく路輝く銀輪

美しい自然のなかで、たくましくはばたこう々をテーマとした第十回「東北サイクリングラリー」は、

八月十七、十八の両日、主会場の五所川原に東北六県をはじめ東京、埼玉などからの特別参加を含めおよそ三百五十人のサイクリストが参加しておこなわれま

した。十七日朝、青森市民文化センターをスタートした一行は、中山山脈を横断する五所川原までの四十キロを走破、午後三時すぎから市庁舎前で開会式がおこなわれました。

二日目は、五所川原を発つて柏村の「日本最古のり

第10回 東北サイクリングラリー



開会式 風景 (市庁舎前で)

三百五十人が走破

開会式は、県別に入场行進したあと、東北サイクリング協議会長の横山新二郎氏が大会のあいさつ、青森県サイクリング協会会長の佐々木栄造氏が「サイクリ

ラリーには、仙台市から七十二歳の二関孝信さんも参加、若者に劣らぬ健脚をふるって関係者を喜ばせました。

んごの樹」を見学、弘前公園までの四十四キロ、あわせて八十四キロを走り抜きました。

ストとしての誇りをもって友情と相互の信頼を深めよう」と歓迎のことばをのべました。

郷土の姿を確めよう

施設見学会の参加を受付け

- ▷とき 9月11日(水) 午前9時半から
- ▷申込み 9月7日までハガキに住所、氏名、年齢、職業を書いて市情報課にお申込みください。
- ▷見学コース 市庁舎前(出発)～西北五衛生処理センター～広域新農業センター～飯詰ダム～津軽フラワーセンター～学校給食センター～元町浄水場～三道会館～の順です。
- ▷お昼 各自ご持参願います。

みなさんにお礼

前年度を上回る 市税収納

四十八年度の市税については、納税者のみなさんの深い理解とご協力により、前年度以上の成績をあげることができました。

ここに、紙上を持って厚くお礼を申しあげます。

なお、四十八年度の市税の収納状況は、次のとおりですのでおしらせします。

◇市税(個人、法人市民税、固定資産税、軽自動車税など十一税目の合計)

△調定額▽ 六億五千五百五十八万六千五百九十八円

△収納額▽ 六億四千八百六十三万七百五十六円

(収納率 九八・九九%)

△前年度比○・三%増)

◇国民健康保険税

△調定額▽ 二億六千六百二十四百六十円

△収納額▽ 一億九千八百七十二万八千三百二十円

(収納率 九六・三九%)

△前年度比○・六四%増)



おしらせ



清掃をして美しい環境に

わたしたちが、清潔で快適な生活をするためには、廃棄物(ごみ)を手早くそして適切に処理することがたいせつです。

二十七日までが「環境衛生週間」となっています。この期間中、みなさんが住んでいる町内などに、地

九月二十四日の

「清掃の日」をごぞんじですか。この日は、昭和四十六年にできた、廃棄物処理および清掃に関する法律の施行を記念して設けられた日です。この日は皆さんで九月二十一日から

城全体の大そうじを実施するほか、公園、観光地、行楽地など多数の人々が集まる場所の清掃を徹底します。大そうじのときは、出たごみが路上に山積みされたり、日常の清掃作業にさしさわるといけないことがないように、市の指示にしたがって協力してくださるようお願いいたします。

食中毒の季節です

また、ねずみやハエなどの防除を徹底することも、

この貝の名前は？

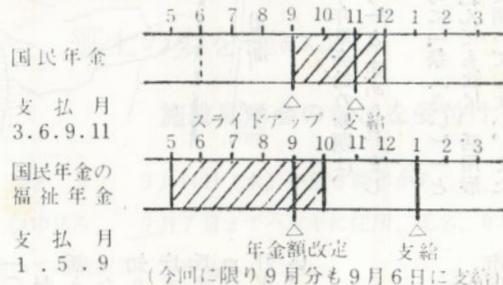
夏休みに採集した「動植物の名前を調べる会」が8月18日、国連青少年の家に30人の小、中、高校生が参加しておこなわれました。津軽植物の会(木村啓会長)などが主催し、同会の自然観察指導員の指導でおこなったものです。会場には、真っ黒に日焼けした中学生や父兄につきそわれた幼稚園児も集まり、海岸で拾ってきたという貝殻や山で採集した昆虫や珍しい植物をいづれも持ってき、指導員に正しい名前をつけてもらったり、標本のつくり方などを聞き熱心にメモをしていました。

清潔な環境で国体を

ところで、本県では昭和五十二年に国民体育大会が開催されます。この「あすなる国体」をひかえて、親切にする運動、花いっぱい運動などと並んで「まちやむら」を清潔にする運動が県民運動にとりあげられています。運動に参加、協力し、清潔な美しい環境で国体を迎えましょう。

運動のねらいのひとつです。赤痢、チフス、コレラなどの伝染病を発生させたリワイル病、食中毒などの病原菌を媒介するねずみや衛生害虫を徹底して防除します。これらのことは、こうした特定期間にだけ行うのではなく、いつでも継続して実施したいものです。たとえば海や山、公園などにでかけた場合でもそこにごみを散らかしつばなしにすることがないように、日ごろからひとりひとりが環境衛生に心がけましょう。紙くず、たばこの吸い殻は、ごみ容器、吸い殻入れに捨てましょう。ひとりひとりの心がけが、住んでいる地区の衛生に、さらに市町村、県、国全体の環境へとつながります。清掃で美しい環境づくり、国づくりをしましょう。

あなたの改定された年金はいつ支払われるか



▽国民年金の支給月は、3月、6月、9月、11月まで、それぞれ前の3ヵ月分が支払われるたてまえですが、11月に支払われる年金だけは9月、10月、11月の3ヵ月分となります。▽福祉年金の支給月は、1月、5月、9月で、それぞれ前の4ヵ月分が支払われるたてまえですが、ことに限って9月に5月、6月、7月、8月、9月分が支給されます。

スズメ追い爆音器

住宅地から離して

稲の登熟期に入るとスズメ追い「爆音器」の使用が盛んになってきますが、使用の場所や時間によっては付近住民の環境を害することになりますので、次のことを守っていただくようご協力をお願いします。

▽「爆音器」の取り付けは、できるだけ住宅地から離してください。

市政ダイヤル

その日の
行事や予定は



広報の早期配布にご協力ください